

2021年全国がん登録票 提出状況の検証 (愛媛県)

～ コロナの影響はあったのか? ～

独立行政法人国立がん研究センター
がん登録部

【背景・目的】

2020年コロナウイルス感染症流行により登録票の提出が滞り、提出件数は減少した。しかし、前年比では12種の減少・増加のうち2017-2020年との比較では43種の減少でしかなかった。

【背景・目的】

検証。この報告の減少でしかなかったのか? 原因にどのような傾向があるのか? 傾向を分析してみた。

【方法】

【比較項目】
●施設の種別別
●医療圏別（診断時住所）
●主要部位別

平均値
(2017-2020)

➔

2021年
届出票

➔

比較

【結果①】施設の種別別

【結果②】医療圏別（診断時住所）

【結果③】主要部位別

【結論①】拠点病院において

届出減少の要因：拠点病院/施設の影響が大きい

- ・第一種感染症医療機関：1施設
- ・第二種感染症医療機関：3施設
- ⇒コロナによる診療体制の縮小や受診控えの影響

- ・松山医療圏：拠点病院4施設が集中
- ⇒人口の多い松山医療圏での大幅な減少

【結論②】一般病院において

届出増加の要因：一般病院からの届出の増加
届出施設数の変化は少ないが届出数が増加
1施設の届出数が増加している。

一般病院の主要部位登録数も平均値より増加
前立腺146件、大腸115件、膵臓1件、乳癌10件

拠点病院よりコロナの影響の少ない一般病院に
受診希望が増加したと推定。

拠点病院からの届出は減少したが、一般病院からの届出が増加したことにより、全体の届出数は例年とあまりかわらない件数であった。今後、一般病院への届出フォローの強化も検討。
また集約値の変化や、2022年の届出件数の変化も注視して行きたい。

日本がん登録協議会
第31回学術集会
COI開示
筆頭演者：白岡佳樹

当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。